

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル7階 TEL 03-6380-8540

《目次》

- 社会教育委員と社教連 顧問 山崎清男
- 第65回全国大会宮崎大会報告
- 第66回全国大会茨城大会ご案内
- 令和5年度地区別社会教育研究大会 報告
- 北から南から
 - 群馬県社会教育委員連絡協議会 会長 金子文雄
 - 奈良県社会教育委員連絡協議会 会長 高島幸子
 - 福岡県社会教育委員連絡協議会 会長 久保ひろみ
- 事務局だより

第68回全国大会は
(令和8年度)大阪府で開催
(2026)

第68回全国社会教育研究大会は近畿地区・大阪府を開催地とすることが、先の総会で決定しました。具体的な日程や開催地などは今後、大阪府社会教育委員連絡協議会を中心に検討され、総会等で報告・承認されていきます。

また、令和6・7年度全国大会及び地区大会の開催予定情報をホームページに掲載しています。随時更新いたしますので、ぜひご覧ください。

社会教育委員と社教連

—小さな「関わり」から大きな「輪」へ—

全国社会教育委員連合顧問
大分市社会教育委員長



山崎 清男

周知のように社会教育法第17条は、社会教育の振興を目的として、社会教育委員(社教委員)の職務を規定しているが、社会教育の振興に対する社教委員の役割は極めて重要である。全国社会教育委員連合(社教連)の定款第3条は、社教連の目的を①全国の社教委員の資質と職責の向上に努め、②社会教育関係者との連絡協力体制を確立し、社会教育に関する諸事業を行い社会教育の振興に寄与することと謳っている。

全国では、多くの社教委員が社会教育の振興のためにその地域の特質や実態をふまえた多様な活動を展開している。しかしそのような活動は、案外限定された地域内にとどまっている場合が多く、そ

これらの活動の独自性や魅力ある活動内容が、他地域の社教委員に伝わりにくい場合もあるといえよう。そこで社教連にはそのような活動を全国の社教委員に「広める」べく、「仲介的役割」を通じて情報発信していくことが求められる。このことは、社教委員の資質と職責の向上に寄与することになるだろう。その際、単に情報発信するのみにとどまらず、その活動を「客観化」し、社会教育の見方や考え方を提示することが重要になる。このことは全国の社教委員の活動の礎をつくと同時に、社会教育関係者相互の連絡協力体制を確立していくことになると考えられる。

このような役割を持つ社教連であるが、残念ながらその「存在」が十分認知されているとは言い難い。全国の社教委員は、社会教育に関する新しい視点や地域の社会教育の向上に関する、わかりやすい支援を求めていると思われる。今後、全社教委員と社教連が「往還」的活動を通して意思疎通を図ることが、更なる社会教育の発展につながる考えられる。全社教委員と社教連の「小さな」関わりが積み重ねが、今後さらに「大きな」活動の輪になっていくことは間違いない。

第65回全国社会教育研究大会宮崎大会を終えて

第65回全国社会教育研究大会宮崎大会

実行委員会委員長 井崎 高信

令和5年11月8日から3日間にわたって、宮崎市で開催された宮崎大会は、「つなぎ・つながり・つなげよう！未来へのたすき！」日本のひなた宮崎からはじまる明日の社会教育」を大会スローガンに、全国各地から延べ二千百人を超える方に御参加いただきました。

全体会（9日）のアトラクションでは、ご当地キャラクター「みやぎ犬」が会場の雰囲気盛り上げる中、「宮崎フラ協会」がフラダンスを披露し、南国宮崎の温暖な気候を彷彿とさせるリズムと、団員の華やかな踊りで会場全体の緊張感が一気にほぐれました。

開会式終了後は、日本文学者で國學院大学教授の上野誠氏と、歌人で宮崎県立図書館名誉館長の伊藤一彦氏による特別対談が行われました。

「時代をつなぐ」「ころ」の普遍性、神話と牧水のふるさと宮崎か

ら生涯学習の在り方を再考する」というテーマで、お二人のこれまでの体験談に加え、専門分野である和歌や短歌にふれながら話が展開されました。軽妙な掛け合いの中に、「ころのゆとり」「出会いを大切に」といった、社会教育への向き合い方の土台となるお言葉が印象的でした。

その後、コーディネーターの長鶴美佐子氏の進行のもと、「誰もが生きがいを感じられる地域社会の実現」社会教育の学びを生かし、人と人をつなぐ」のテーマでシンポジウムを行いました。

5名のシンポジスト（西祐樹氏、小林由枝氏、松下尚明氏、竹内一久氏、清國祐二氏）がそれぞれの活動紹介をされた後、各取組に対して、お互いが異なる立場から質問し合いながら、経験をもとに深く掘りさげるような形で意見交流が展開されました。

「まず動き始める」「頑張りす

ぎない」活動を楽しむ」など、テーマの本質につながる発言が多く聞かれました。

分科会（10日）は、3会場にて、「学校・地域の連携・協働」「家庭教育支援」「高齢者と社会教育」「地域の活性化」「社会教育委員の役割」の5つのテーマで意見交流を行いました。

各分科会では、2つの先進事例の発表をもとに、会場からの質問も織り交ぜながら、研究主題である「笑顔あふれる地域を創る社会教育の実践」に迫る白熱した意見交流がなされました。

今回の大会は、改めて都道府県を越えて、参加者同士が同じ空間の中で貴重な時間を共有することの良さを感じることでできた大会となりました。

振り返れば、昨年度準備委員会を立ち上げ、宮崎県に来てよかった」と思っていただけのような大会となるよう準備や当日の運営を

進めてまいりました。

参加者から、「会場スタッフ皆さんが笑顔で接してくださって、温かい気持ちになりました。」といった感想をいただき、嬉しく思います。

最後に、今回、宮崎大会に御参加いただいた皆様をはじめ、運営に携わった多くの関係者の皆様から感謝いたします。

今回の大会を機に、ぜひ「日本のひなた」宮崎への御来県を心よりお待ちしております。

また、来年度の茨城大会がより充実した大会となりますことを祈念いたしております。



ご案内

第66回全国社会教育研究大会茨城大会
第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会
第10回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

彰往考来～人をつくり 人をつなぎ 地域をつくる 未来の社会教育～

徳川光圀公は、明暦3年(1657)に史局を設けて大日本史編纂事業に着手し、水戸藩主就任後の寛文12年(1672)、この史局を「彰考館」と名づけました。彰考とは晋代の杜預『左氏伝』の序にある「彰往考来」に拠ったものです。「過去を明らかにして未来を考える」という意味であり、これからの社会教育活動を実践していく上で必要なことと考え、テーマに設定しました。

従来より子どもたちの体験活動不足と、それに伴う諸問題が指摘されておりますが、近年は、それに加えて不登校・引きこもりの増加、貧困・ヤングケアラーなど子どもたちの健全な成長を阻む問題が生じており、その解決が望まれております。

国の動向に目を向けると、令和5年4月には“こどもまんなか社会”を実現するために「こども家庭庁」が発足されるとともに、“子どもの権利を守る”ための法律である「こども基本法」が施行されました。私たちには、地域において子どもの健全な成長を支援するために、世代や立場を超えたつながりを生み出し、子どもを取り巻く問題の解決に地域ぐるみで取り組んでいけるような社会教育のあり方について検討し、実践していくことが求められています。

そのような中、光圀公所縁の地である茨城県水戸市に全国各地から社会教育関係者が集まり、子どもたちを取り巻く様々な問題を考察し、解決を目指した実践活動について協議を重ね、より充実した実践を目指していくことは意義のあることと思えます。

茨城県社会教育委員連絡協議会会長

第66回全国社会教育研究大会茨城大会実行委員長 稲葉 里子

●大会の概要

- 1 研究主題 誰一人として取り残さない社会を目指す社会教育のあり方
～子どもたちの健全な成長を支える～
- 2 期 日 令和6年10月23日(水)～25日(金)
- 3 会 場 水戸市民会館(水戸市泉町1丁目7番1号)
- 4 大会日程

第1日 10/23(水)	14:00				15:30		16:00		17:30									
	全国社会教育委員連合理事会				都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会等事務局担当者会議													
第2日 10/24(木)	10:00		11:00		12:30		13:00		14:00		15:20		15:30		16:50		17:00	
	全国社会教育委員連合 総会		受付 分科会 打合せ		アトラク ション		開会 行事		記念講演		シンポジウム		閉会 行事					
第3日 10/25(金)	9:00		9:30		11:50													
	受付		分科会 (全5分科会)															

5 分科会

分科会	テーマ
1	地域と学校の連携・協働
2	家庭教育の充実支援
3	若者の主体的活動の促進

6 大会参加費

5,000円/人(大会資料代等)

分科会	テーマ
4	社会的包摂の実現
5	社会教育委員の役割

社会教育研究大会報告

北海道地区

未来に向けた
社会教育活動の在り方

第62回北海道社会教育研究大会（空知大会）は、10月20日に長沼町役場を拠点会場に354人の参加を得て開催しました。大会実行委員会では、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、慎重に議論を積み重ね、1日日程でのオンライン開催としました。



午前は、開会式・永年勤続功勞

表彰式の後、NPO法人おむすび副理事長兼ネイチャーキッズ寺子屋代表大畑伸幸氏の特別講演、藤女子大学准教授松田剛史氏の基調講演をライブ配信しました。

午後は、4分科会を設定し、ブレイクアウトルームを取り入れるなど、より自由な発言ができるよう工夫しました。会場によっては、司会者の誘導により、対面方式に近い討議が展開できていたグループもあり、活発な意見交換が行われました。

本大会の成果がこれからの社会教育の推進に当たつての課題解決や活性化につながることを心から願うとともに、多くの皆様の参加とご協力に感謝申し上げます。

第62回北海道社会教育研究大会（空知大会）兼
全国社会教育委員連合北海道ブロック大会
大会長 岩野 真志

東北地区

少子高齢化・人生100年時代
における社会教育のあり方

～学びを通じた地域の活性化
に向けて～

令和5年度東北地区社会教育研究大会は、全国公民館研究集会及び東北地区公民館大会と合同開催にて10月13日東北福祉大学キャンパスを拝借致して行いました。当初は集合開催を予定いたして

おりましたが、コロナ禍に於ける準備期間中でもあり急遽参加対象を全国及び東北各県の市町村社会教育委員、公民館関係者、学校教育関係者、各教育関係団体や社会教育に関心のある方とし、開催場所も縮小し集合は宮城県内の200人、県外参加につきましてはオンライン参加形式100人（ヶ所）を目的に準備に当たりました。

結果として対面形式の宮城県内参加者は236名、その他各県（全国含む）参加者は167名（※集合開催の集合人数は含まず）、総勢403名での実施となりました。分科会も①「求められる社会教育人材」②「地域学校協働活動の充実に向けて」③「青少年による地域活動の推進」④

「多様な主体がつながる公民館」の四つに絞つての開催でした。尚、間もなく大会記録のDVDも完成予



定であり、本会報発刊頃には各地区に配布される予定です。

令和5年度東北地区
社会教育研究大会実行委員会
実行委員長 菅原敏元

関東甲信越地区

今、改めて考える
「ふれあい」をとおした
つながりづくり・地域づくり
～ウェルビーイングの実現に
向けた社会教育委員の役割～

第54回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会は、令和5年11月21日（火）、22日（水）の2日間、栃木県宇都宮市において開催いたしました。参加者は延べ約1,200人となり、盛大に開催することができました。

本大会は前出のテーマに沿って、これからの社会教育の在り方や求められる社会教育委員の役割などについて皆様と共に考えました。歓迎アトラクションでは、白鷗大学ハンドベルクワイアの皆様に、美しい音色を奏でていただきました。記念講演では、作新学院高等学校校硬式野球部監督の小針崇宏氏から、講演と対談をとおして、人づくりとつながりづくりについて、ユーモア溢れる素敵なお話をしていただきました。

続くシ
ンポジウ
ムでは、
コーデ
ィネーター
の進行の
もと、4
名のパネ
リストに
よる実践
発表・討



議をとおして、ウェルビーイングを
現させるためのヒントを学びました。

2日目は、5つの分科会で、実
践事例の発表と参加者との意見交
換をとおして、社会教育の推進の
ための具体的な方策について学び
ました。

本大会をとおして、皆様に新た
な気付きがあり、同じ志を持つ仲
間とのつながりが生まれていれば
幸いです。

本大会に御参加・御協力いただ
いた皆様に心より感謝申し上げます。

第54回東海北陸社会教育研究
大会福井大会実行委員会
実行委員長 斎藤 陽子

東海北陸地区

フェニックス！社会教育

第54回東海北陸社会教育研究大
会福井大会を、10月12・13日に福

井県知事をはじめ多数の来賓を迎
えて、福井県生活学習館で開催し
ました。大会は、新型コロナウイルス
を踏まえ、完全対面方式で実施し、
2日間で延べ750名を超える参
加がありました。

本大会は、諸課題が多様化・複
雑化し、一人では解決困難な問題
が山積する中、誰一人取り残さな
い多様性と包摂性のある持続可能
な社会を目指し、若者も巻き込ん
だ新たな社会教育のあり方につ
いて研究協議を行いました。

1日目は、福井商業高校チア
リーダー部JETSのOGによる
笑顔溢れるダンスで始まり、ト
クセッション
では、社会教
育の若者への
アプローチに
ついて、慶應
義塾大学特任
准教授 若新
雄純氏と福井
県の社会教育
委員・若手行
政職員が熱く
語り合いまし
た。

2日目は、
5つの分科会



に分かれ、6県1市の研究実践が
発表され、活発な意見交換・討議
が行われました。

本大会に御参加・御協力いた
だきました皆様に、この場をお借
りして心より御礼申し上げます。

第54回東海北陸社会教育研究大会
福井大会実行委員会
実行委員長 徳本 達之

近畿地区
地域への愛着と誇りを
育てる社会教育

令和5年度近畿地区社会教育研
究大会滋賀大会は、9月8日に立
命館大学びわこ・くさつキャン
パスを会場に、約680名の参加を
得て開催することができました。

全体会では、上田洋平滋賀県立
大学地域共生センター特任講師に
より、「ここでともにぶじに生
きる」と題して記念講演をいた
だきました。また、分科会では「学
校・家庭・地域の協働」「地域づ
くり」「青少年教育」「家庭教育支
援」「人権教育」をテーマに実践
報告をもとに参加者が討議をし、
助言者に総括いただきました。

研究主題「地域への愛着と誇り
を育てる社会教育」は、滋賀県実
行委員会が、これからの社会教育
で何を大切にしていくかについて

議論し生み出
したものです。
参加された皆
様が本大会を
通じ、考え受
け止められた
ことを各地域
の取組に広げ
ていただくこ
とを願ってい
ます。

最後に、今
大会を開催で
きましたのは、
ひとえに学び
たいと強い思いを持つてご参加
いただきました皆様、大会の準備や
運営に携わっていただきました関
係者の皆様のお陰であると心より
感謝申し上げます。



令和5年度近畿地区社会教育研究大会
滋賀大会実行委員会
実行委員長 川端 一

中国・四国地区

縁結びの地 島根で学ぼう、
つながろう、始めよう！
〜地域の人づくり・つながりつ
くりを進めるために〜

国宝松江城を仰ぎ見る島根県民
会館を会場に、11月16・17の両日、
中国・四国地区を中心に約500

人の参加者を
迎え、第45回
中国・四国地
区社会教育
研究大会島
根大会を開催
しました。

浜田商業高
校郷土芸能部
による石見神
楽「大蛇」は、

「大蛇」は、圧巻の演舞であり、演舞後のインタビュ―では高校生の地域に対する熱い思いに触れ、スタートから会場は熱気に包まれました。

続く明石要一先生の基調講演は、わかりやすく、会場の参加者も巻き込みながら笑顔あふれる時間となりました。初日の最後は、パネルディスカッション。テーマを「開かれ、つながる社会教育の実現に向けて」とし、県内の実践者3名をパネラーに迎え、あつという間に時間が過ぎてしまいました。

2日目は4つの分科会に分かれ、それぞれの会場で2つの事例をもとに熱い議論が交わされました。社会教育を大切に守り、育ててきた島根県らしさを感じて帰ってただけでいたら幸いです。

本研究大会に御協力、また、御参加いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございます



ました。

第45回中国・四国地区社会教育研究大会島根大会

実行委員長 有馬毅一郎

政令指定都市大会

令和5年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会は、令和5年7月5日(水)、6日(木)に、WEB開催で行われました。

審議では、左記の議題1及び議題2について諮られ、両議題について承認されました。

【両会議共通】

▼議題1 提案協議議題について

開催市で割り当てた両会議の協議議題について、各都市からの回答報告書の資料をもとに質問や意見交換を行った。

▼議題2 一般社団法人全国社会教育委員連合表彰者の推薦について

表彰候補者2名の推薦を提案した。川崎市 奥平亨／堺市 林美輝

今回は、WEB開催で行いましたが、活発な意見交換が行われました。ご担当者様には当会議に向けた各種資料の提出、回答等のご協力をいただき、誠にありがとうございます。

令和6年度開催都市については、開催順に基づき、京都市となりました。

政令指定都市社会教育委員連絡協議会事務局

横浜市教育委員会事務局

生涯学習文化財課長 小野寺紀子

北から南から

社会教育に携わり

40年余り



群馬県社会教育委員
連絡協議会
会長 金子文雄

私は教職の経験はありませんが、これまで社会教育に携わってきたことについて書かせていただくことにしました。私が社会教育に関わり始めたのは昭和57年4月からで、玉村町体育協会の理事をはじめ、平成13年4月から同協会の会長、同年4月に町社会教育委員、平成19年4月から町社会教育委員会委員長、同年5月から県社会教育委員連絡協議会理事、そして令和5年6月から同協議会会長を拝命し現在に至ります。町社会教育委員会で、平成16年度から「サケの放流事業」を開始しました。本事業は、12月初旬に町内の保育園、幼稚園、小・中学校、児童館、一般の希望者にサケの受精卵を配布し、翌年3月初めに孵化した稚魚を育てた人達が利根川に一齐に放流する

ものです。平成30年以降は中止となりましたが、本事業は、保育園児から小・中学生、さらには大人まで多くの町民が関わり、受精卵から稚魚になるまでを家庭等で観察でき、稚魚放流を通じて子どもたちが命の大切さを学ぶ、生きた社会教育ができたと思います。また、平成27年度から平成28年度にかけて、身近な地域課題を洗い出し、資料等を基に調査研究を行い、平成29年度に町教育委員会へ最初の提言を提出しました。その中で、「伝統行事の衰退」「ごみ出しのマナーの低下」「子育ての悩みの増加」「振り込め詐欺等の増加」「災害時の共助の低下」という5つの問題について、「地域のつながりづくりがその問題を解決しうる力を持っている」と結論付けました。その後、提言内容を見直し、より良い玉村町の社会教育推進の方向性を導きたいと考え、平成30年度に町の健康福祉課が行うアンケートの中で、提言内容に関する質問事項を追加して調査を行い、住民意識を研究しました。その結果から「防災教育」に重点を置き、令和3年度に「地域の人と人とのつながりをつくる防災教育」を提言しました。今後とも町、そして県の社会教育推進に向けて取り組んでいきたいと思っております。

社会教育委員として



奈良県社会教育委員
連絡協議会
会長 高島幸子

一、社会教育って何？

私が王寺町の社会教育委員に任命されて23年になります。委員を引き受けた当時は何をすれば良いのかわからず、自分自身社会教育に対して理解が出来ていないところからのスタートでした。社会教育委員について町の関係団体に所属しない限り、社会教育委員の存在自体を認識されていないというのが現実でした。

二、研究大会に参加して

このような状況から私自身ももっと社会教育のことをしっかり説明できるようにならないといけないと思います。研究大会などに足を運びました。色々な地域で活躍されている社会教育委員の方々と交流する中で、みなさんが自分の住む地域をとっても大切に思ってお

れ、地域のために働く事を惜しまず、自分の住む地域で足りないものは何だろうという追求心をもっておられることを知ることが出来ました。そういう方々と交流し、私も自分の地元の良いところや足りないところを色々考えました。そして私自身地元に戻って何をすれば良いのか考えるきっかけをいただきました。

三、これから

今の時代は多様性という言葉で、個々の考えや行動に踏み込めないところもあります。それぞれ個性を認め合いながら、お互いの気持ちを語り合うことが必要であると考えています。そういう機会を多く作るためにも社会教育の場は必要不可欠であります。私たち社会教育委員がそういう場を設ける事に関わっていかねばならないと思っております。そして、私の役割として、機会があるたびに一人でも多くの方に社会教育への関わりや社会教育の大切さを伝えていくようにしていきたいと思っております。

全ての人のウェルビーイングを実現するために



福岡県社会教育委員
連絡協議会
会長 久保ひろみ

少子高齢化など現代における社会の急激な変化は、個人と社会の関係、住民と行政との関係に大きな変化をもたらしています。また、地域のつながりの希薄化や貧困といった福祉的な課題の増加などを背景に、学校が抱える課題も複雑化・多様化し、社会全体で子どもの育ちを支えていくことが求められています。

令和5年6月に閣議決定された教育振興基本計画では、子どもたち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がり一人一人の子どもや地域を支え、更には世代を超えて循環していくという在り方が求められると示されています。

今まさに社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「か

かわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕し、地域において人々の関係を共感的・協調的ものにするのが期待されています。こうして形成された地域の人々の関係は持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となります。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされることとなります。そして、地域で人と人とのつながりを作り、協動的な幸福感を紡ごうと取り組んでいる人たちが自信と誇りを持つことができるようにすることが重要になります。

福岡県社会教育委員連絡協議会では、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を推進する社会教育委員の資質向上や委員の会議の活性化を図るために、社会教育研究大会の実施や情報の収集・提供に努めています。子ども・若者を含む主体的な住民参画とそれを支援する行政の相乗効果で、地域住民の健康・住みやすさ・住民満足度等のウェルビーイングが向上することを願い、社会教育委員の一人として自ら学び・活動し続けたいと思っております。

理事会・総会報告

●令和5年度

第3回理事会、第2回総会の開催

令和5年度第3回理事会は、全国社会教育研究大会宮崎大会の第一日、11月8日(水)に、第2回総会は11月9日(木)に開催されました。

理事会及び総会の議題等は次のとおりで、いずれも承認されました。また、第3号議案の第68回全国社会教育研究大会は近畿地区・大阪府を開催地とすることが決定しました。

【議事】(☆印は理事会では議事、総会では報告)

第1号議案 第66回全国社会教育研究大会(茨城大会)について

第2号議案 第67回全国社会教育研究大会(岩手大会)について

第3号議案 第68回全国社会教育研究大会の開催地区について

第4号議案 理事の退任及び選任について

【退任】森川知史(京都府社会教育委員 連絡協議会会長)

牧野 篤(横浜市社会教育委員)

会議議長)

【選任】京谷安泰(京都府社会教育委員 連絡協議会会長)

稲葉里子(茨城県社会教育委員 連絡協議会会長)

新潟県社会教育委員連絡協議会

第5号議案(☆)特別委員会の設置について

定款第31条に規定する「特別委員会」として、①機関誌「社教情報」編集委員会、②「新・社会教育委員のためのQ&A」(仮称)編集委員会、③「新規事業構想検討委員会」(仮称)の3つの委員会を設置する。

【報告】

1 会長及び常務理事の職務の執行状況について

2 令和5年度社会教育委員活動活性化セミナー及び助成事業について

3 表彰状及び賞状筒の形態変更について

【その他】

○今後の総会等の日程について(後述)

事務局担当者会議を開催

第65回全国社会教育研究大会宮崎大会の第一日目の11月8日(水)に、都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会等事務局担当者会議が昨年度に引き続き開催され、32県3市から48名の参加がありました。

会議では「県の社会教育委員連絡協議会の運営について」をテーマにして、2つの県の協議会の事務局担当者から事例が発表されました。

・新潟県社会教育委員連絡協議会

事務局 猪又慶太氏

福岡県社会教育委員連絡協議会 事務局長 金ヶ江正大氏

発表は、協議会の組織やブロックなどの形態の概要、会議や研修の回数

の説明に加え、手引き等発行物を回覧しながら内容や発行頻度の説明がありました。

さらに、社教連への期待も述べられ、内容は多岐にわたりました。

事例発表を踏まえた全体討議では、①発行物のデジタル化対応、②運営費の財源、③研修のあり方、④対象や悉皆等の形態、④県社連の業務以外で担当している所属課の業務などについて、幅広く情報と意見の交換が行われました。

終了後には「他県や他の担当者の事例が聞けて、さまざまな運営方法があることが判った」、「参考にしたので刊行物をいただきたい」、「こういう機会を増やしてほしい」などの声がありました。

◆今後の会議予定

◆令和5年度第4回理事会・第3回総会

期日：令和6年3月1日(金)

時間：理事会／11時～12時30分

総会／14時30分～16時

会場：日本弘道会ビル(東京都千代田区西神田)

◆令和6年度第1回理事会・総会

期日：令和6年5月31日(金)

時間：理事会／11時～12時30分

総会／14時30分～16時

※いずれも時間帯は予定

会場：日本弘道会ビル(東京都千代田区西神田)

◆令和6年度第2回理事会

期日：令和6年10月23日(水)

時間：14時～15時30分

会場：水戸生涯学習センター

◆令和6年度第2回総会

期日：令和6年10月24日(木)

時間：10時～11時

会場：水戸市民会館

◆都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会等事務局担当者会議

期日：令和6年10月23日(水)

時間：16時～17時30分

会場：水戸生涯学習センター

◆令和6年度第3回理事会・総会

期日：令和6年2月下旬又は3月上旬

時間：理事会／11時～12時30分

総会／14時30分～16時

※いずれも時間帯は予定

会場：日本弘道会ビル(東京都千代田区西神田)